

先人築いた「信頼」に甘んじず 次代をつくる

千葉代協 創業70周年の記念式典を開催



東会長

千葉代協(東正己会長)は創設70周年を記念し、2月13日にホテルグリーントワー幕張(千葉県千葉市)で記念式典を開催した。東会長は「70年及以上試行錯誤の活動によって今の千葉代協がある。これからの活動次第で千葉代協が大きく変わると改めて自覚しなければならぬ」と語り、結束を呼びかけた。式典では千葉県出身のスポーツジャーナリスト増田明美氏の講演や千葉代協活動に功績のあった5氏を表彰した。会場には他代協や保険会社、提携業者などが参集し、70周年を祝った。

ルールを正しく運用 新たな課題を仲間と乗り越える

挨拶に立った東会長は、人生100年時代は素晴らしい挑戦である一方、健康生活や事業活動に存在する多種多様なリスクに気付くことが大事だと指摘。「損失を回避・軽減し、いかに再起の力を得るかが保険本来の

役割。顧客の人生に寄り添うのは保険代理店にしかできない使命だと確信している」と述べた。また、今の千葉代協は70年もの間、先人が試行錯誤して活動した結果であり、今後の活動が千葉代協の未来をつくるが、代理店経営にも同じことが言えるのではないかと示唆。「ルールを正しく運用し真価を問われる時代になっている。比較推奨販売や自己点検チェックシートの実用化という新たな課題を代協の仲間と共に乗り越えていこう」

と鼓舞し、「先人が築いた『信頼』に甘んじることなく、次代の千葉代協をつくり上げていこう」と呼びかけた。続いて来賓として日本代協の小田島綾子会長が祝辞を述べた。同氏は、昨行われた保険業法と監督指針の改正や自己点検チェックシートを通じた保険会社との対話が本格化するとし、「形のな

い商品だからこそ、積み重ねてきた信用こそがお客様にとっての最大の安心。この仕事を通して業界全体の健全な発展に貢献したい」と活用を呼びかけた。功労者表彰では、石井理夫氏、中島勝美氏、須

佐弘男氏、宮澤哲氏に感謝状と盾が贈られ、会場からは盛大な拍手が寄せられた。功労者表彰に先立ち行われた基調講演では、スポーツジャーナリストの増田明美氏が「リスク、挑戦、人生100年時代」と題して講演を行った。13年間の現役生活で女子マラソンの日本記録を12回更新するなど、日本女子マラソンを牽引してきた同氏は「2本の足は大事」といい、運動神経の良かった自慢の母が転倒によって圧迫骨折し歩行量が激減したエピソードを披露したうえで、医師の「2本の足は2人の主治医」という言葉を紹介し、人生100年時代をいかに自分の足で歩行することが重要かを訴



増田氏

えた。また、選手の人柄を紹介する独自の解説スタイルに関しては取材が楽しいという観察力の重要性に言及し、「万が一の際に柔軟な対応ができる。パラリンピックの伴走者を見ていると寄り添うことの大事さが分かる」「人生という長距離マラソンで隣にいる人が苦しそうなら手を差し伸べることも大事」と保険代理店が顧客を知ることに通じると示唆した。さらに、さまざまなチームを見てきた経験から「強いチームほど明るい」といい、明るい職場で自分が楽しむことが顧客にも伝わり、その考えを明かした。同氏は大切にしている言葉として、「失ったものを数えるな。今あるものを最大限活かそう」、論語の「知幸楽(ち・こ・う・らく)」を紹介するなど、常に明るく前向きに笑いを交えながらエールを贈った。